

薬歴管理による副作用重篤化回避

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、注射薬と内服薬の薬歴を合わせて管理することで、薬剤の過量投与を防ぎ、副作用の重篤化回避に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶ステロイド性大腿骨壊死に対し手術を行った患者。

Rさん

【注射薬】アセリオ®静注液 1000 mg 1回 1000 mg 1日3回
15分以上かけて投与
【内服薬】トアラセット®配合錠「トーワ」 1回1錠 1日4回
(トラマドール塩酸塩 37.5mg 及び日局アセトアミノフェン 325mg を含有)



医師

お疲れ様です。どうされましたか？

お疲れ様です。
Rさんについて少しご相談があります。



薬剤師



なるほど。総投与量は見落としていましたね。
ありがとうございます。

術後の鎮痛薬ですが、点滴でアセリオ®静注液、内服でトアラセット®配合錠を処方されていますね。
これらを同時に使用するとアセトアミノフェンとして1日あたり4300 mgとなり、**最大投与量の4000 mg**を超えてしまいます。



手術後ということもありますので、アセリオ®静注液で様子を見ていただいて、問題なければ徐々に内服薬へ切り替えていく形はいかがでしょうか？



そうですね。
では一旦、トアラセット®は中止とし、アセリオ®で少し様子を見ていきたいと思います。

アセリオ®静注液（3000 mg/日）を開始から数日後に軽度の肝機能異常は認められたものの、悪化することなく、疼痛コントロールもおおよそ良好に経過した。その後、徐々に内服薬へと切り替えられ、肝機能異常は改善傾向であった。